

# 第壹弾

山  
の  
都

# の 都を憶もう子ども の育成

世代を超えた交流と地域を学ぶ場を設け、  
郷土への誇りを育てる。

山都町教育委員会

〒861-3592 熊本県上益城郡山都町浜町 6 電話：0967-72-0443

# 義務教育学校開校

今、そして未来の  
子どもたちに私たちが  
できることを思い描く…皆様のご理解とご協力が  
山都の子どもたちの将来をきっと明るく照らす…



私たちの宝である  
山都の子どもたちに  
明日を力強く生き抜く教育を!



山都の  
「ヒト・モノ・コト」

山都町教育委員会は目指しています。  
令和九年度  
清和地区  
義務教育学校開校



公 民館の町・社会教育の町として高い評価を得る山都町での義務教育学校開校は、コミュニティスクールの更なる発展と活性化、教育へのご助力を賜り、地域の皆様との密なる連携が創出できると定見し、大きな期待を寄せております。「山都町に住み続けたい」「離れても山都町にいつか戻りたい」という山都の子どもたちの心豊かな成長を地域の力で後押ししていただけるものと願っております。

# 始動

# 小中一貫校 義務教育学校 制度化の背景

## 義務教育学校

矢部・清和・蘇陽3地区の小学校・中学校をそれぞれ統合することで、文部科学省が水準と定める児童生徒数、学級数、及び教員配置の確保が可能となる。

9年一貫教育で時間的な余裕が生まれ、学習カリキュラムと地域特性を生かした郷土学習の充実が望め、生きる力の根幹をなすアイデンティティの育成に資することができる。

義務教育の期間、学校が見守り続ける中で、児童生徒個々が抱える問題に、学校、児童生徒、保護者、地域住民、そして関係機関等の5者が、ともに取り組む環境が整う。

義務教育学校の設立に伴い、理想とする要件を満たす校舎が整備される。

## 義務教育学校開校地区毎 メリット

9年間の前半、担任による指導を中心に、基礎・基本の定着を重視。後半は、教科担任制の活用、習熟度に合わせた学習を行うステップアップ授業の創設等が可能となる。専門性の高い授業を行う中で、子どもたち個々の得意分野や優れた能力を伸ばす教育を展開する。

### 清和地区

- ・校舎老朽化等への早急な対応
- ・「清和っ子育成会議」地域連携の風土の継続
- ・スクールバスを利用した通学時間の短縮
- ・地域の基柱となる文教施設としての機能に期待
- ・衛生安全基準に合致した近代的学校給食設備の整備

### 矢部地区・蘇陽地区

- ・児童生徒数の推移により、引き続き新設校の必要性を商量
- ・先行モデルを踏まえ、校舎、跡地の集約や有効活用に期待
- ・衛生安全基準に合致した近代的学校給食設備の整備
- ・スクールバス路線の集約と乗車時間の短縮等に加え、高速道路整備状況を踏まえた、合理的な通学方法の検討が可能

日本は、小学校6年間中学校3年間の学校制度を戦後から長きにわたって続けています。しかし近年、この制度が現在の実態に則していないのではないかと疑問視する声が上り始めました。小学校から中学校に進級した際の環境変化が、子どもたちに多大なストレスを与えるとも考えられています。中1ギャップの問題も含め、9年間の進級をスムーズに行える小中一貫校・義務教育学校の構想が生まれ、すでに各地で開校されています。人間形成に最も重要とされる義務教育の9年間を、一人の校長の下で、一つの教職員集団が、情報を共有しながら教育にあたる義務教育学校はまさに、山都町の環境変化に対応できる学校制度です。



平成31年に統合を経験した矢部小学校の当時のアンケート結果には  
「人数が増えて良かった(53%)」「休み時間に遊ぶ相手が増えた(61%)」  
「授業が楽しくなった(32%)」といったポジティブな回答が多く、心強い。

複式学級の増加。

同学年に複数教員の配置が可能な【1学年2学級以上】の設置が望めない。

切磋琢磨することで児童生徒一人一人の資質や能力を伸ばすという学校本来の特質を発揮しにくい。

多人数での学習や交流の機会が少ない。

地区をまたぐ統合が時間の問題。登下校に要する時間への懸念が生ず。

校舎老朽化は進むが、個別の新校舎建設への理解が得られにくく。

子どもたちは9年間、同じ環境に身を置くこととなります。人間関係が思うようにならず、傷ついたり、消極的にならざるを得ないような出来事が身に降りかかった時、卒業や入学といった、大きな環境の変化によって心が救われた経験をお持ちの方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。義務教育学校に「環境の変化」という逃げ道は望めません。想像するに、それは大変辛いことで、デメリットと言っていいでしょう。しかし、思い出してみてください。義務教育学校のメリットを…。一人一人の成長を、多くの教職員が一丸となって見守るのが義務教育学校です。子どもたちの小さな変化やSOSを見逃さないように、沢山の目が、常に子どもたちを見つめています。そして、いつでも手を差し伸べられるようにと、心がけています。地域のコミュニティに助けていただくことも大いにあるでしょう。

これが山都町の義務教育学校が目指す姿です。

## 小從来型 学校中学校

## 義務教育学校 デメリット